

平成 23 年度は、歴代陸海軍大臣の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 田中 義一 1864～1929年 》

一参謀として日露戦争を戦い、陸軍大臣として震災対処に尽力した将軍一



11.18 俘虜情報局へ俘虜中佐エム・クリンゲンベルグ田中義一中佐宛書翰の件 (登録番号：大日記-大本営-日露戦役-M37-20-154)

田中義一大将は、明治 19 年 6 月、陸軍少尉に任官、その後、歩兵第 2 旅団長、参謀次長、陸軍大臣、内閣総理大臣等の要職を歴任しました。この史料は、日露戦争当時、大本営陸軍幕僚付の村田惇少将が俘虜情報局に送った明治 37 年 11 月 18 日付の照会文書です。同年 10 月に負傷し俘虜となったロシア陸軍のクリンゲンベルグ中佐が満洲軍参謀の田中大将（当時中佐）に送った書簡の中で、俘虜となった際、所持品等を奪取されたと記載しており、事実ならば「我力軍ノ面目ニモ相関シ．．．至急御詮議ノ上」現品を返却したいとしています。同中佐は、田中大将がロシアに派遣された当時の隊付部隊の大隊長でした。



大震災に当り陸軍大臣の訓示

(登録番号：大日記-陸軍省-陸普-T12-1-26)

田中大将は関東大震災発生直後の大正 12 年 9 月 2 日、陸軍大臣（2 度目）に就任しました。この史料は同 18 日付の陸軍一般に対する陸軍大臣訓示です。訓示は「日夜寝食ヲ忘レテ劇務ニ奮勵シアルハ官民ノ齊シク認メテ感謝スル所ナリ．．．家ヲ焼キ父母骨肉ヲ喪フモ一意尚ホ其ノ本務ニ服セシモノニ至リテハ眞ニ惻怛ニ堪ヘス」、「願ニ戦陣ノ事固ヨリ吾人ノ本務ナリト雖平時變災危急ニ祭シ進テ警防救護ニ任スルハ軍民一體ノ要義ナリ各部隊能ク此趣旨ヲ體シテ其ノ本分ヲ盡シ國民ノ信賴ニ應フルヲ得タルハ本職ノ満足スル所ナリ」と震災後、速やかに出勤して警防救護に任じた陸軍各部隊の活躍を称賛しています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp